

はじめに

東北歴史博物館は、宮城県を中心にしながら、東北地方の歴史・文化に関わる資料の収集と保存、研究に努めています。また、その成果を広く世界に発信することにより、社会との交流を促進し、国際化時代にふさわしい地域づくりと地域活性化に貢献することを使命としています。

本紀要は、そうした使命のもと博物館自らが研究し、その成果を還元できるように、当館職員の研究活動の一端を公にするものです。今回は、考古学から報告2編、保存科学から報告3編、美術から資料紹介1編を収録しています

相原と山形県埋蔵文化財センター植松暁彦氏・明治大学阿部芳郎氏・東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室・千葉県立中央博物館黒住耐二氏・早稲田大学樋泉岳二氏・㈱パレオ・ラボ野口真利江氏の共同研究によって行われた山形県酒田市飛島西海岸製塙遺跡の考古学的調査の報告をします。飛島西海岸では古代製塙遺跡とともに、古津波堆積層が北海道大学名誉教授の平川一臣氏によって確認されており、その堆積層の特徴や出土遺物の年代に関する考察、自然遺物の分析、炭化物からの年代測定、珪藻分析を行っています。

及川らは水損資料から生じる揮発成分について継続して調査しており、今回は真空凍結乾燥法の問題点とその対処、応急処置とその後の処理方法について具体的な提案を行います。また、低エネルギー・低コストの持続可能な文化財保管空間を構築するために、空調機が稼働していない木質系内装材収蔵庫の湿度特性について報告します。森谷は2011年3月11日の東日本大震災で被災したリュックの変色をはじめとする被災痕跡の劣化について調査しています。

相原と中央研究院地球科学研究所・金沢大学国際文化資源学研究センターの飯塚義之氏は、当館所蔵の宮城県栗原市上堤遺跡出土「の」字状石製品と大崎市根岸遺跡出土の管玉ほか玉類の再検討および蛍光X線分析による石材調査について報告します。

大久保は新出の小池曲江筆仏涅槃図について、東園寺本・雲上寺本と比較しながら、図様の選択には谷文晁らの影響があった可能性や制作時期等について検討し、資料紹介します。

職員一同、今後とも新たな一歩を刻むよう一層の研鑽を重ねる所存ですので、変わらぬご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和2年3月27日

東北歴史博物館長 笠原信男